

木造不動明王坐像 1 軀

木造不動明王坐像

もくぞうふどうみょうおうざぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品〔彫刻〕

所有者

宗教法人 大日寺(だいにちじ)

所在地

大阪市城東区鳴野東 3 丁目

紹介



木造不動明王坐像(大日寺)

大日寺は、鳴野の旧集落の中に寺地を構える真言宗の寺院である。弘法大師の創建と伝え、18 世紀初めの地誌の『摂陽群談』には、弘法大師作の大日如来をまつる大日堂としてその名がみえる。本堂の、向かって左側に安置する本像の像高は 58.9 センチメートル、ふくよかな面部、奥行が深く、量感豊かな体部、太い線と細い線を使い分けた衣のひだの表現に特色がある。像高が 2 尺にみえない小像だが、堂々とした体軀(たいく)で、制作は、平安時代後期、12 世紀代にさかのぼると考えられる。市域の希少な平安彫刻のひとつである。